

加も脱酸，清浄剤として有効であると共に，黒鉛化を促進し流動性を向上すると言われる。

Pb-Fe合金も記されてゐるが，その性質については擧げられてゐない。Biで処理した鑄鐵は流動性，耐久性に優れ，且つBiは脱酸作用がある。

Uは鋼に添加されれば硬化能を増大することが知られてゐるが，鑄鐵の場合には脱酸剤として作用する。

(長谷川正義)

含 Ti 低合金鋼に及ぼす熱処理の影響 (G. F. Comstock, Am. Soc. Metal., Oct., 1943, Prep. No. 23)

従来 Ti 鋼の熱処理に関しては種々實驗結果が報告されてゐるが，これらは何れも主として小鋼塊について行はれたもので實際操業のデータは少い。

著者はこの点に鑑み，均熱爐中に鋼片を加熱して大

規模の熱処理の影響を研究した。

使用した鋼片の鋼種は0.13% C, 0.37% C炭素鋼，低 Cr-Mo 鋼及び 1.24% Mn 鋼の4種で，すべて Ti を含有するものである。

この試験の結果，何れの鋼に於ても強度の増加に関する Ti の効果は，特に壓延の儘の鋼，或は變態点以下で歪取焼鈍を行つた鋼に有効であることを認めた。

この理由は，普通ピレットは壓延時 1100°C 以上に必ず加熱されること，及び Ti の強度増加効果を保つためには焼入を必要としないことに在る。

尚，加熱後加工を行はない場合は一般に Ti 鋼は粗粒組織を示し，衝撃値を低下する懼れがある。

1100°C と變態点との間の温度で焼準を行えば，Ti の強度増加作用は阻げられるが，靱性及び衝撃値の改良を計ることが出来る。(長谷川正義)

日本鐵鋼協會記事

I. 昭和 23 年度第 5 回 (臨時) 理事會兼研究部會長會報告——昭和 23 年 6—25 (金) 12 時—16 時—協會々議室—出席者 (會長 山岡 武 (理事) 松永陽之助・田畑新太郎 代 三井太信・菊池浩介 (常務委員) 谷口光平 (研究部會長) 里村伸二君・大原久之君 (鐵鋼會) 芝崎邦夫君・穗坂徳四郎君 (主事) 金谷三松。

(協議事項) 1. 今秋講演大會實施に關する件—決定 [開催地] 大阪市。 [實行委員長] 扶桑金屬工業株式會社 專務取締役 廣田壽一君・其の他實行委員 19 名推薦。 [見學工場] 希望箇所を委員長へ照會・其の他。

(研究部會長會議) 1. 部會研究問題の選定 2. 鐵鋼技術研究連絡會運營要項申合せ(案)の作成。

II. 鐵鋼技術研究連絡會設立の經過報告——昨年 6 月日本鐵鋼協議會の解散後新に日本鐵鋼連合會が設立された際同連合會と當日本鐵鋼協會との事業内容の重複競合を避けるため兩者の技術的調査研究事項に關してはこれを日本鐵鋼協會の研究部會に合併して運營することとしその經費は同連合會が負擔して支援することに意見の交換あり。

昭和 22 年 6 月 24 日を以て協會側から會長三島徳七君及池田正二君，谷口光平君，芥川武君，菊池浩介君，俵信次君その委員となり，連合會側から專務理事藤井丙午君及芝崎邦夫君，穗坂徳四郎君が同委員となり幹旋者日本製鐵株式會社技術部長湯川正夫君立會の上鐵鋼技術連絡協議會の名の下に具体案が進められ爾後，この準備會は 2, 3 回に亘り熱心に討議せられた結果，鐵鋼技術連絡協議會運營要領案まで作成せられ，將に實行に移らんとする氣運にまで達して居たが，偶々事業者団体法との關係上同連合會の前途が安定する迄一時中絶の止むなきに至つた。其後鐵鋼連合會は解散し更に日本鐵鋼會となつて安定した。

一方當協會に於ては昭和 23 年の新年度を迎へ，新會長山岡武君は會運挽回手段として鋭意先づ會誌の月並發行，會員の在否鮮明及び研究部會の常置等に力を注ぐこととし，其内研究部會の常置に關しては本年 5 月先づ各部門の委員長を依屬し，次で研究題目の詮議に移らんとし 2, 3 會合を實行しつゝあつたが，その間日本鐵鋼會及び商工省鐵鋼局をも加へ此等三者の從來互に連絡なき無駄なる研究努力を除かんものと再度の提案があり，山岡會長も深くその意を諒とし茲に昭和 23 年 6 月 2 日，7 月 14 日兩理事會に諮り又其の間鐵鋼局，鐵鋼會，鐵鋼協會三者代表數次の折衝を重ね互の主張点を傷めることなく而かも緊密な連絡が取れるやうに別紙の通りの「鐵鋼技術研究連絡會運營要領申合せ」が出来上り 7 月 29 日に漸く三者の協調捺印を見た次第である。

而して 8 月 5 日の日本製鐵株式會社八幡製鐵所に於ける製鋼部會の分科會重油使用研究部會から此の申合せの催しとして適用を始むることとなつたのである。本經過中監督官廳たる商工省，業種多岐に亘る會員會社を網羅せる鐵鋼會及び専ら學術技